

町のうごき	
本籍数	5,031
本籍人口	15,592
世帯数	4,009 (3,934)
住民登録人口	14,915 (14,852)
内 { 男	7,200
女	7,715

2月1日現在
()内は1月1日現在

町のてんぱ

No. 156

昭和51年

3月1日発行

発行・秋田県天王町役場 電(018878)2211~4

編集・企画室 印刷・一日市印刷 電(018875)2038

秋田湾地区大規模工業開発

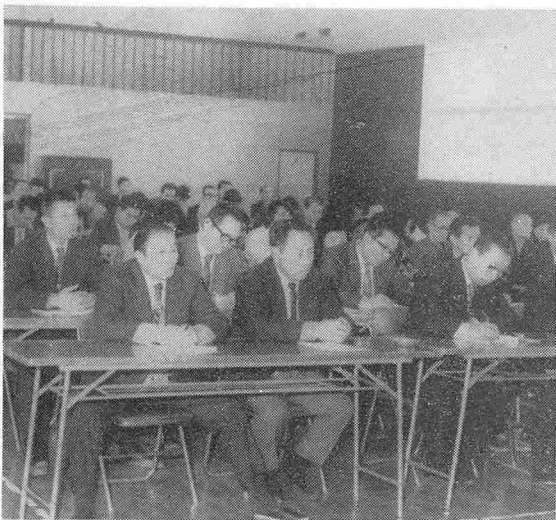
初の合同研修会開く

65年度を完成目標に

町では、去る一月二十九日町公民館において、秋田湾地区大規模工業開発計画に関する住民研修会を開催した。この研修会は、過去三回実施した鹿島研修への参加者と秋田湾地区大規模工業開発天王町推進委員を対象として行ったもので、およそ八〇名の出席者は、この日の講師にお招きした三宅県臨海工業開発課長のお話しに熱心に耳を傾けていた。

地域の均衡ある発展のために

秋田湾地区大規模工業開発計画の中心地に位置する本町ではこの開発計画が、真の意味での住民参加のもとで進められることを願い、その予備学習として先進地である鹿島臨海工業地帯の研修視察を実施してきましたが、この日の研修会では、秋田湾地区大規模工業開発計画を直接担当している県の三宅臨海工業開発課長、同小室、川辺両課長補佐を講師団としてお招きし、秋田湾地区大規模工業開発計画の現状と今後の方向々というテーマで三宅課長の講話を中心に活発な質問をまじえながら有意義に研修が進められました。主な質問の内容は次のとおりです。



▲三宅課長の講話をメモをとりながら真剣に聞き入る参加者

計画通りの期待ができるか。答 開発をするための大きなねらいのひとつであるので、これができるれば開発の意味がない。したがって技術習得の方法等地元労働力の雇用については充分配慮している。

住民参加の開発というものが具体的にどのような方法を考えているのか。答 県では、いま住民の方々から検討していただくための検討資料を作成する作業を進めていますので、この資料がで

三宅課長の講話要旨

大を因りながら地元産業への波及効果を促進しようとするものである。

この条件を満たすためには、将来性のある鉄及び鉄に関連する企業の誘致が望ましい。

企業誘致のために必要な工場用地は、日本海の埋立によって造成するが、この埋立によって生ずる漁業補償問題については充分考慮するし、職業の転換を余儀なくされる漁業者の働き場については会社側と交渉し、希望がかなえられるように努力を重ねていくが、一方では、栽培漁業についての研究も深めていきたい。

また、この開発のためには、原則として農地の使用は考えていないが、生活環境施設の整備のため道路等の新設が予想されるので場合によっては一部の農地を必要とすることもあり得る

冒頭にも申しあげましたように、これまでの調査は、工業開発のためのみではなく、この開発によって生ずると思われる生活環境施設の整備の面など、あらゆる面での調査を実施している。この結果によると基盤整備のため必要とする経費はおよそ七千億円程度と考えられるので、この経費の捻出についても綿密に調査、検討をしている。

公害対策については、どのような公害をしていくか。答 鉄鋼産業は他産業と比較して公害が少ないといわれている。

秋田湾地区の開発については立地条件等、どの程度評価されているのか。答 大規模工業開発をするための適地としては、多くの条件が具備されていなければならぬが、我が国で最も適地とされている地域は、瀬戸内海や太平洋ベルト地帯といわれているが、現状では立地の余地がない。したがって残されている地域の中では、秋田湾が最適地であるという関係方面の一致した意見が出されている。

が、一番心配されることは原料ヤードの粉塵の飛散が考えられる。しかし、いまこの防止対策が専門家の間で急速に研究が進められているので秋田湾地区の開発についてはこれらの最新の防止方法を採用し、少なくとも現状より環境が悪化しないよう万全の対策を講ずる。

秋田湾地区の開発についてことと思われる。製鉄所と関連工場がどのように配置されるかということが天王町の方々にとって大きな関心の的だと思いが、これまでの調査結果にもとづいた考え方は①男鹿市沖に製鉄所を配置し天王沖へは関連工場を配置する②天王の蒲沼より南側沖に製鉄所を配置し、男鹿市沖には関連工場を配置するという二つの案について検討しているが、地盤の強弱によって左右されることになるので、今後さらに調査を進める。

この計画の完成年度は昭和六十五年を目標としているが、秋田県に残されている唯一の財産ともいえる、なげなしの海を埋立するのであるから悔いの残らない立派なものを作ってやるのが、今の時代に生きている我々の任務だと思ふ。今後ともあらゆる機会において、皆さんのご要望、ご提言をいただければ幸いに存じます。

また、この開発のためには、原則として農地の使用は考えていないが、生活環境施設の整備のため道路等の新設が予想されるので場合によっては一部の農地を必要とすることもあり得る

おまちどう！

天中で給食始まる

——町立校は完全実施——

天王中学校で給食が始まった。町では、天王中学校生徒の完全給食を実施するため、同校南側に昨年五月六日から給食施設を建設していたが、十一月三十日に完成、一月二十六日から開始している。

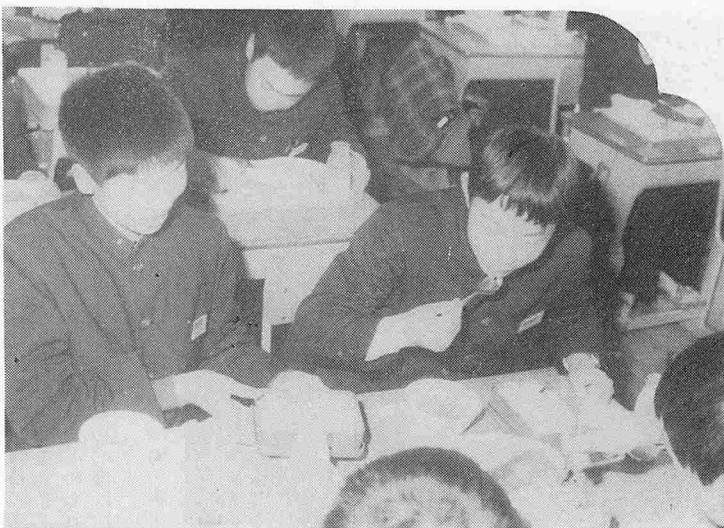
この給食施設は百八十九・四六㎡で、工事費は建物に一千三百七十二万円、施設設備に六百四十八万円を投資、国から四百六十二万六千円、県から百六十九万五千円の補助を得て完成したもので、土曜、日曜を除く週五日間実施している。

この内、米飯給食が火曜、木曜、金曜の週三回、パン給食は月曜、水曜の週二回で、一食当たり生徒負担額は百八十円。

同校には十五学級、五百八十五人の生徒がおり、各学級では給食当番五人を決め、食器カゴの持ち運び、配膳、後かたづけまでを行う。

献立は栄養のバランスを考慮し、一食のカロリリーは八百カロリリーから千カロリリーまでで、ちなみに二月十七日の献立は、豚肉を使った肉ダシのカレー煮とニンジン、玉ねぎ、シュガービース、キャベツを使った野菜ソテーに牛乳一本で、生徒たちの評判も良く「毎日の昼が楽しみ」と、大きな口でパクついていた。

同校の給食実施で、町内の小中学校、町立幼稚園、保育所は完全実施となり、食生活の合理化と食事時の正しいマナー、栄養など大幅に改善され、勉強にも一段とハッスルしているようすがうかがわれた。



▲笑顔で給食、大きな口でパクパク
弁当箱も見る見るうちにカラツポになる

読書感想文コンクール 優秀作品37編決まる

町公民館では読書の感想文を募集していたが、このほどその特選、入選作品を発表した。応募総数は百四十八編で、この中から特選九編、入選二十二編、佳作六編を選んだ。

この作品の審査には公民館図書室運営委員があたり、その選後感として「一回を重ねるごとに応募作品の質の向上が目立っており、優秀作品が目白押しで優劣を付けがたいが、その差は①感想文そのものを与える感動の強弱 ②原稿用紙の規定枚数の遵守 ③文体の統一」この三点を目安として優秀作品を選んだ。

また、同委員会では、高校生

手植えは五百円アップで 二千五百円

五十一年度の農業労賃決まる

農業委員会では、二月三日に開いた同委員会の総会で、五十一年度の農業労賃を決めた。

これは、農繁期の労働力を確保するために前年度農業労賃実支払額、農外諸賃金などを考慮して毎年定めているもので、五十一年度は手植え、手刈りが一日二千五百円となり、五十年度より五百円アップされた。

農業労賃は次のとおり

- ◆耕耘||整理田三千円、未整理田三千円、干拓田三千三百円、いづれも10a当り
- ◆代かき||整理田二千三百円、未整理田二千四百円、干拓田二千五百円、いづれも10a当りで構造改善事業は場の整地作業を含む場合は、整理田の労賃に三百円を加算
- ◆苗取り||一日二千五百円

◆田植え||手植え一日二千五百円、機械植え一万二千五百円(稚苗)、一万五千五百円(中苗、成苗)これはいづれも10a当りで苗を含むもの

◆稲刈り、脱穀、調整||手刈り一日二千五百円、バインダー(10a当り)五千円、コンバイン(同)一万七千円、ハーベスター(同)五千円、乾燥(同)千五百円、籾すり(一俵)四百円、精米(同)五百円

◆運搬作業||トラクター一日七千円

◆一般作業||男一日三千五百円、女一日二千五百円

他町村や他部落からの雇用は実費を加算し、いっさいの作業に「まかない」はつけないことになっている。

石山ようこ(天王小二年) 佐々木理吏子(出戸小二年) 石黒広美(東湖小二年) 猿田誠(追分小三年) 佐々木貞一(出戸小三年) 七夕恵(東湖小三年) 村田詠吾(出戸小四年) 藤田恵(追分小四年) 三浦景(天王小四年) 渡部千晴(同五年) 佐藤珠理(追分小五年) 江畑玲子(同六年) 千田郁子(天王小六年) 佐々木美由紀(天王中二年) 佐々木久美子(同) 戸田博子(同) 二田ユリ子(蒲沼) 加藤佑子(同) 佐々木璋子(下出戸)

～佳作～

佐藤正一(追分西) 児玉ハチ(天王) 越後谷雅子(同) 桜庭タエ(塩口) 田山美恵子(東湖むつみ団地) 菊地宗子(北野)

二月六日から、町、県、国税の「所得申告」について、その指導と相談にあたり、同時に納税義務者の皆さんから申告をしていただいております。

あなたの税金はあなたが決めて納得のいく納税をするように必ず申告をしましょう。

指定日に申告できない方は、三月九日から三月十五日までに役場税務課で申告をしてください。

◎三月の申告相談日程は次のとおり(数字は世帯番号の上二ケタ)

- ▼一日||江川21、22(児童館)
- ▼二日||同23、24(同)
- ▼三日||西荒町、東荒町、旭町13、14、15(戸主会事務所)
- ▼四日||本町、下町16、17(同)
- ▼五日||神明町、上荒町10、11、12(本郷分館)
- ▼六日||渋谷09(分館)
- ▼八日||曲町下、曲町上18、19、20(本郷分館)
- ▼九日||塩口北野、羽立北野57、58(塩口北野集会所)

※時間は各日も午前九時半から午後三時半までです。土曜日は十二時までです。



忘れずに申告を
期限は15日まで

第25回家庭バレーボール大会

主婦の部 天王Aと児玉が連勝

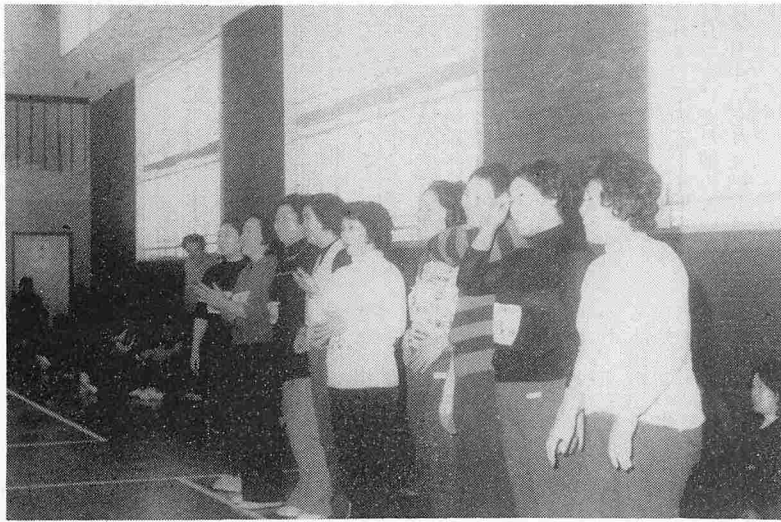
若妻決勝は大激戦

「ワン・ツウ・ラスト」家庭バレーボール大会が二月十五日の家庭の日に町公民館体育館と天王小体育館の両会場で四部に別れて行われた。

この大会は、既婚者を対象に健康づくりとよりよい人間関係をつくるために年二回実施されているもので、今回で二十五回を数えた。

出場チームは青年の部十四、壮年の部八、若妻の部十一、主婦の部七の合わせて四十チームが参加、試合は、一回戦から好ゲームの連続で、技術的にもドリブル、ホールディングなどが少なくなつた反面、スパイク、ブロックなどの高度な技術も見受けられ、練習量の豊富さを物語っていた。

各部の決勝戦は、接戦の連続だったが、特に若妻の部の決勝戦二田新町―塩口の一戦はシ―ターゲームを展開、セットカ



▲若妻の部の決勝戦で塩口チームを大激戦の末敗つた優勝の二田新町チーム

ウト一対一で迎えた三セット目、十四対十四となり、あと一点を先取した方が優勝とあつて場内は一瞬静まり返つた。ラリーが続いたあと、塩口チームの打つたボールがネットのトリコになり、二田新町の優勝が決まつた。

また、男子壮年の部の天王Aは四連勝、主婦の部の児玉は三連勝を飾つた。

当日の成績は次のとおり

～男子～

◆青年の部

- ①二田新町 ②上出戸 ③塩口北野B、天王B

◆壮年の部

- ①天王A ②天王B ③二田大崎

～女子～

◆若妻の部

- ①二田新町 ②塩口 ③天王A、江川A

◆主婦の部

- ①児玉 ②大崎 ③追分北野羽立

悲惨な交通事故をなくそう!

【運転者向け】
運転が示す
あなたのお人柄
危ないと
子をしかるより
手を引こう

【歩行者向け】
危ないと
子をしかるより
手を引こう

【子ども向け】
とび出すな
車のあとにまた車



研究グループめぐり

塩口生活学級

塩口生活学級の発足は古く、町内研究グループの中の最古参である。年令層も五十才以上も交えた中年婦人が主である。結成以来十数年になるが脱落者もなく、二十二名の会員は委員長の桜庭みよさんを中心に意気盛んである。

一年間十回の学習内容には、ことさら斬新なものはないが、健康学習の疲労調査、社会学習の裁判所見学、町議会傍聴、たしなみ学習の着付、人形づくりなどは非常に感謝されている。

疲労調査は、男鹿農業改良普及所の成田さん、本町の保健婦などの指導で行われたが、血圧や握力の測定、健康状態や自覚症状の聴聞、日常の献立や味噌醬油の塩分度あいの話しあいなどが主なるものである。今まで気がつかなかつた献立の栄養の片寄り、塩分の取り過ぎなど、生き

た勉強であつたとよるこんでいる。 裁判所の見学は、ちょうど秋田市新屋浜におきた、前夫殺人事件の公判であつたが、初めて見る裁判所、異状なふん囲気、被告の表情、弁護人の意見など生身の日常生活をつぶさに反省され、得るところが大きかつたようである。



▲「文化ししゅう」に取り組もうと意欲的な学級生

短歌

天王町短歌会一月会より

追分 吉田 四郎

縋り立ちはじめし孫に目を送り
飲む新年の酒をかさねる

江川 伊藤テッセ

年すでに八十路をすぎし父なれど
永遠の別ればあわれにかなし

二田新町 三浦 絹子

娘にピアノノようやくにして購いて
折々我も古き歌弾く

追分西 鷺谷 哲男

足許がふらぶき出して転がれり
目まいでなきがせて幸い

二田 島山 照雄

木枯の雨戸をわたる夜の炉辺に
なごやかなりしお茶の友がき



